

# 日本に不足している用意周到

東京大学名誉教授  
つきおよしお  
月尾嘉男

## アメリカの用意周到

日本が日露戦争に勝利した時期から、世界の構造が一気に変化すると想定したアメリカ海軍は世界各国を対象とした「カラーコード戦争計画」の策定を開始する。その一部である対日戦争計画は「オレンジ計画」と命名され、太平洋上での両国の戦闘を想定した内容は、日本海軍のパー

ルハーバーへの奇襲をはじめ、およそ三〇年後に発生した実際の戦闘を正確に予測した作戦であった。

成田国際空港は乗降客数では世界で五〇番目、貨物輸送では世界で一〇番目であり、経済大国の玄関としては心許ない状態である。実際、アジアのハブ空港の地位は成田より国際乗降客数で優勢な香港や仁川などに奪取されている。その主要な原



放を実施したことの影響と憶測されている。

日本の心筋梗塞による死亡は三五年前に比較して一・六倍の増加であるが、アメリカでは約三五%も減少している。平均寿命から健康寿命を引算した介護を必要とする年数は、過去一〇年間でアメリカでは一・二年短縮したが、日本は〇・四年の増加である。アメリカは綿密な調査により、七〇年代から魚類や野菜の摂取を増加させる政策を推進してきたが、日本では肉食が増加した結果であると考えられる。

## 中国の用意周到

ミクロネシア連邦は日本と戦前から密接な関係をもつ島国であるが、現地の日本大使館は建物の一部を間借りした簡素なもので、大使も複数の国々を兼務する巡回大使で、常駐していない。一方、中国は国会議事堂の建設を負担し、その前面に立派な大使館を建設している。目的は太平洋上に拠点を確保すると同時に、日本の排他的経済水域の三分の二近

い広大な海域での漁業などの利権確保である。

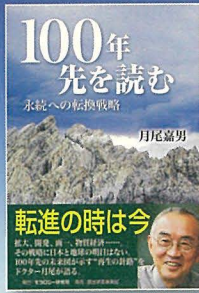
アイスランドは人口三二万人の島国であるが、中国は首都レイキヤビクに巨大な大使館を建設し、中国文化を喧伝する孔子学院も設置した。さらにアイスランドの金融危機のときには五億ドルを貸与している。目的は北極圏域の利用を決定する北極協議会へのオブザーバー参加である。気温上昇により、北極航路が有望になり、海底に大量の鉱物資源が存在していることも判明してきたからである。

中国は自国の伝統医療「中医学」を代替医療の国際標準にしたいと国際標準化機構（ISO）に提案した。その結果、作業部会が設置され、韓国代表が議長に就任した。中国は八〇人近い職員の専門組織を設置し、世界各国で中医学の施設を実施し、韓国は韓医学の振興に約二〇人の専門の役人が活動している。日本では「漢方」が利用されているが、中央官庁に専門の職員もなく、「漢方」がガラパゴス医療になりかねない。

## なぜ日本は出遅れるのか

関係のなさそうな事例を列挙してきたが、共通している特徴はアメリカと中国という大国が様々な分野で用意周到な戦略を準備し推進していることである。一方、日本はアメリカが日本の魚類と野菜が中心の食事を推奨したときには肉食を推進し、北極についても今年三月に北極担当大使を任命したという出遅れである。これは国家運営だけではなく企業経営にも共通している特徴である。

かつて日本の企業には終身雇用、家族経営、年功序列など、目先の成果に左右されない経営理念が存在した。しかし最近では、社員の大量解雇や複雑な金融操作などにより短期の利益を目指す企業が氾濫している。それは一時の効果があるものの、結局は破綻している事例の山積みである。大国には大国特有の傲慢や独善があるにしても、長期の戦略を背景にした国家運営が大国を維持しているのであり、日本の企業経営の参考にすべきである。



絶賛発売中!!  
ご注文は添付のハガキで